

おおま

No. 108

令和3年2月1日発行

議会だより



令和3年1月7日 大間町消防団出初式

主な内容

12月定例議会

○令和2年 第4回定例会

P 2

○3議員が一般質問

P 3～5

○全員協議会

P 6

○特別委員会

P 7

○奥戸中学校閉校記念式典・新議員紹介・編集後記

P 8

第4回 12月定例会

令和2年第4回定例会を12月10日開会し、12月16日に閉会しました。
本議会に提案された議案13件はすべて原案のとおり可決しました。

令和2年度 補正予算

一般会計

歳入歳出それぞれ5443万円を追加し、歳入歳出予算の総額59億1818万円とした。

歳入の主なるもの

国庫支出金

○国庫負担金で、障害者自立支援給付費負担金646万円、自立支援医療給付費負担金100万円追加。

○国庫補助金で、特別定額給付金事業費補助金280万円、特別定額給付金事務費補助金195万円減額。
○新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金2429

万円、社会資本整備総合交付金616万円追加。

県支出金

○県負担金で、障害者自立支援給付費負担金323万円追加。

○県補助金で、大間・函館フェリー航路特別対策事業費補助金500万円、新型コロナウイルス感染症対応地域経済対策事業費補助金1500万円追加。

諸収入

○雑入で、原子力発電所対策諸費用283万円減額。

歳出の主なるもの

総務費

○財産管理費で、財政調整基金積立金600万円減額し、ふるさと応援基金積立金1717万円追加。

○企画費で、公共施設個別計画策定業務委託料193万円減額。
○特別定額給付金事業費で、印刷製本費107万円、特別定額給付金280万円減額。

○新型コロナウイルス感染症対策費で、漁業者支援対策臨時給付金6887万円、大間・函館フェリー航路特別対策事業費支援金1000万円計上。

民生費

○社会福祉総務費で、障害福祉サービス費等給付費1292万円、障害者自立支援医療給付費200万円、介護保険特別会計繰出金439万円、児童措置費で保育所広域入所委託料321万円追加。

農林水産業費

○繁殖センター費で手数料220万円追加。
○漁港建設費で地域水産物供給基盤整備事業負担金200万円追加。

土木費

○道路橋梁維持費で重機借上料600万円追加。

消防費

○常備消防費で下北地域広域行政事務組合負担金306万円追加。
○非常備消防費で大間町消防団事務委託料299万円減額。

教育費

○事務局費で大間町児童生徒に係る選抜等大会出場補助金150万円減額。
○小学校費の学校管理費で自動車借上料11万円減額。

○中学校費の学校管理費で大間中学校トイレ改修工事156万円減額。
○水飲み場自動水栓取付工事112万円計上。

予備費

○財源調整いたしました117万円減額。



一般質問



野崎 信行 議員

質問時間 60分

先端デジタル科などを設け、広く全国・世界から生徒を募集するべきである。

町長答弁

学校長、PTA会長等との意見交換を行っているところであります。

問5

「障害者施設」建設について。

大間町・風間浦村・佐井村に障害者施設がない。必要性を調査し、北通り地区に施設をつくるべきである。

町長答弁

現在、考えてはございません。

問6

「総合戦略課」設置について。

佐井村では、いろいろな地域の課題を早急に解決するため、地域戦略課を設置している。大間町にも設置すべきである。

町長答弁

現在、企画経営課が担い事務事業を推進しております。

問7

「市民風力発電おま」が発電した電力を佐井村が購入する。年間4000万円の電気

料金が1割安くなる。再生エネルギーの普及のため、大間町も購入すべきである。

町長答弁

今後は、佐井村の取り組みとその成果について注視してまいります。

問8

大間病院に感染拡大防止対策として、独自で「PCR検査」がすぐできるような施設をつくるべきである。

町長答弁

12月1日より抗原検査ができるよう体制を整えました。

問9

「くま出沒」について。全国でくま出沒が相次いでいる。大間町山中にたくさん「どんぐり」を植えるよう、国に要請すべきである。

町長答弁

生態系に人為的に手を加えることが適切かどうかという議論も踏まえながら、慎重に対応してまいります。

問10

「ヤングケアラー」について。

町長答弁

母子保健部門、障害部門、子育て支援部

門、教育部門と関係機関が連携し対応しております。

問11

大間町の小・中・高校生のおよびの現状はどうなっているのか数字を示せ。

町長答弁

幸い、大間町では重要ないじめは発生しておりませんが、今後学校と連携をしながら、防止に向けて取り組んでまいります。

問12

「IT企業とドローン協定」締結について。災害発生時に情報収集するための協定を結ぶべきである。

町長答弁

有効性等を考慮しながら検討してまいります。

問13

「電源開発」から出土した遺跡を、展示施設をつくり展示すべきである。

町長答弁

新たな展示施設をつくる予定はございません。

問14

おいらせ町は、2021年度から町県民税・固定資産税・軽自

動車税・国民健康保険税の町税4税と、介護保険料・後期高齢者医療保険料をコンビニ納付可能とした。大間町も収納事務の委託契約を早期にし、コンビニ納付を可能とすべきである。

町長答弁

慎重に進めてまいります。たいと思います。

問15

「奥戸中学校の有効活用」について。

大間町と青森公立大学は協定を締結している。奥戸中学校跡地にキャンパスの誘致も考えられるかどうか、お聞きしたい。

町長答弁

いただいた御意見等を参考に検討してまいります。

問16

大間町にある池の水が枯れてしまっている。原因を行政で調査し、元に戻すべきである。

町長答弁

周辺整備や環境美化などについて、対応してまいります。

63の質問の中から16を掲載いたしました。

今後の子育て世代のニーズを把握し、検討

町長答弁

「ひろさき子育て応援」アプリについて。弘前市では、子育てを支援するアプリのオンライン相談機能を導入している。大間町でも実施すべきである。

問2

「ひろさき子育て応援」アプリについて。

町長答弁

PR館は事業者が設置することとなります。

問1

原発「PR館」設置について。電事連にPR館を作ってもらい、広く理解を深めるべきである。

町長答弁

PR館は事業者が設置することとなります。

問3

「新婚補助60万円」について。

町長答弁

内閣府は、少子化対策の一環として、新婚世帯の家賃・敷金・礼金・引っ越し代などについて、60万円を上限に支援している。大間町も住民に周知し、利用推進すべきである。

町長答弁

国への申請には十分な時間が必要となります。

問4

「大間高校存続」について。特色ある高校・まぐろ漁師養成科・世界最

してまいります。

「新婚補助60万円」

について。

内閣府は、少子化対策の一環として、新婚世帯の家賃・敷金・礼金・引っ越し代などについて、60万円を上限に支援している。大間町も住民に周知し、利用推進すべきである。

町長答弁

国への申請には十分な時間が必要となります。

問7

「市民風力発電おま」が発電した電力を佐井村が購入する。年間4000万円の電気

一般質問



岩泉 盛利 議員

質問時間 40分

大問・函館フェリー 航路について

問 我々議会では、大函丸の恒久的な運航を願い、特別委員会を設置し、航路に関する事件の調査検討を目的として審議を重ねております。

津軽海峡フェリー株式会社との指定管理、11年間の契約期間終了も6年3月と近づいている中で大問町民にとっても大きな課題だと思います。

これらについて今後の対応策を聞きたい。

町長答弁

今後の思いについては、今年の8月3日に運行事業者と恒久的な運航を行うための協議を実施した。この協議は引き続き行っていく。また不採算航路(政策転換期における離島航路

航路であることを訴え、フェリー存続に向けての協力行動について協議する。○平成21年4月、函館市議会正副議長と元姉妹都市である、戸井町の議長であった吉田市議が、当町議会へ航路存続に向けての意見交換を行い、市議会も共通認識で取り組む約束をする。○5月22日、函館市議会臨時会で、函館・大問フェリー航路存続に関する決議案が可決される。

○7月15日、函館市、函館議会と共同で国に対する要望活動が行われ、金子一義国土交通大臣との会談が実現される。大臣は当町の苦悩を理解したうえで「準離島航路の認定には無理があるが、国としてなんらかの支援策を考える」と、強い姿勢を示した。あれから話しが見えなくなったが、これらの流れについてどう考えているか聞きたい。

町長答弁 平成20年に撤退の話を受けその対策を講じるため、議会と速やかに国に要望活動をしたが、岩泉議員の言う準離島航路の話も、本州と北海道を結ぶ航路であり適用できないと理解してきたが、結果的につながっていかなかった。今後は積極的に行動を行い対応をしていく。

再質問

ただいまの8月3日については、正副議長と特別委員長が津軽海峡フェリーとの協議について、特別委員会で説明している。

○平成20年9月、東日本フェリーから11月の末に航路撤退との話がある。○12月17日、竹内弘議長と副議長の私が、函館市、函館市議会にこの航路は町民にとって生活航路と命の

津軽海峡フェリーに変わる。ばあめの運航に対し、6000万円の支援がなければ航路の廃止をするとおどかしてくる。その後、議論を重ねたが最終的に新造船導入の話になる。

我々は町の財源を考えたとき、フェリーの小型化など効率的な輸送手段を考えるべきだと、特に故傳法議員は強く述べていたが、会社側は、船を小型化すると休航率が高くなるとの意見で3対6で議決され、今の大函丸が建造された。我々の意見が届かず残念であった。

先ほどの答弁の津軽海峡フェリーとの意見交換の中で、会社側から町に支援のお願いをしているとの話を初めて聞く。その後県が50万、町が500万の1000万円程度の支援が決まった。また、「早い時期に大函丸の売却を考え、それを手元に船の小型化の考え」を示された。我々3名が反対意見を述べたとおりになってきた。また指定管理中にこんな話が出ることに對してどのような感じているのか、町長も前に大函丸の売却の話をしたと記憶しているが、早い時期でなくこの場で簡潔な答弁をお願いする。

町長答弁

指定管理中という話し、これはコロナ禍の中で津軽海峡フェリーだけでなく、各事業者に大きな影響を及ぼしていること、対策で、町に支援をお願いをした。また船をつくる段階には、慎重な意見をいただい

た。船をつくるに当たって、スペック検討委員会の中で専門家を交えて検討した経緯で船が建造された。また船の売却については、環境の悪化に伴うCO₂の排出しない燃油に変えていくこと等も含めて、船の課題だと認識している。船を売却することに関しては今後議会と協議を進め、有効な手段を考え手続きをしていく。

旧埠頭までの338号、279号の複合国道を、今後は新フェリーターミナルまでとする。ことと、そこから函館までの海上国道航路の要望、陳情の話を私がしたと思うが、昨年の2月大問原子力発電所の推進を国に対して要望した時に県選出の議員と話しをしたが、口頭でなく文書で陳情してもらえば自分たちも動きやすいというが、町長は自分が何回も要望しているが、県も国もなかなかできないと言っている。

再質問

私は、この航路が町の負担なく存続していく対策を講じてもらいたい。

ただいまの意見は何度か伺っている。町、議会これらに係る団体等の協力を得ながら、国に対して要望活動を積極的に行いたい。また、計画を進めていく。将来に向けてやるべきことを精査しながら、計画を進めていく。ばと考えている。

町長答弁

確認だが、先ほど国に対しての要望活動を今後も進めていきたいとの答弁、いつ頃になるのか聞きたい。

再質問

今後の行動に関しては、コロナ禍での移動をどうするかという問題があるが、そういうことを踏まえながら収束後行動できるように準備を進めていきたい。

町長答弁

北海道新聞に第2青函トンネルの記事が載っていた。全国建設会社や商社など200企業団体でつくる日本プロジェクト産業協議会が

全員協議会

〔令和2年11月2日〕

案件

一、財政シミュレーションについて

(内容)

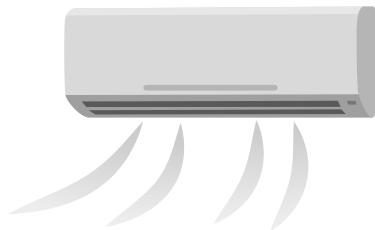
町から令和3年度から令和7年度までの5年間の大間町財政計画が示された。令和3年度の歳入総額は47億1600万円、令和7年度の歳入総額は46億2800万円であり、令和3年度の歳出総額は46億5300万円で、令和7年度の総額は45億5300万円、歳入歳出の総額は今後5年間は横ばいに推移すると見られる。

二、新型コロナウイルス

感染症対応地方創生臨時交付金を活用する支援事業について

(内容)

新型コロナウイルス感染症対策として、うみの子保育園・大間保育園の2か所に対して「空気清浄機能付き冷暖房設備」を設置する。総事業費は247万5千1千円となる。



〔令和2年12月1日〕

案件

一、大間中学校・奥戸中学校統合に向けて

(内容)

令和3年春から統合となる中学校としてのメリットほか、教育活動方針など、細やかに説明がなされた。

二、大間町課設置条例の一部を改正する条例(案)について

(内容)

令和3年4月1日より、税務保険課及び住民福祉課が所管する事務の一部を統合して、新たな「健康づくり推進課」を設置する。また、税務保険課は「税務課」となる。

※本案は12月議会定例会で可決されました

三、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用する支援事業について

(内容)

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を克服し、基幹産業である漁業を守り抜くため、大間・奥戸両漁協の組合員に事業継続を目的とする支援金を給付する。また、肉用牛の消費落ち込みによる市場価格の低迷及び売り上げの減少から、畜産農家の経営安定を目的として支援金を給付する。

漁協関係では、正組合員に10万円、準組合員に4万円また、畜産農家には10万円を給付する。総予算額は、6957万9千円である。

※本案は12月議会定例会で可決されました

四、大間町海峡保養センター及び養老センター指定管理について

(内容)

海峡保養センター及び養老センターの指定管理者については令和3年3月31日をもって満了となることから、これまで施設の維持管理にも精通し、地域の活性化に尽力していると評価ができる「株式会社グリーンストアール」へ再指定する。再指定期間は令和3年4月1日～令和8年3月31日までの5年間とする。

※本案は12月議会定例会で可決されました

〔令和2年12月16日〕

案件

一、新型コロナウイルス感染症対策費について

(内容)

12月議会定例会の

議案審議の際に質問があった全町民に対しての施策について、町から3案が示されたが議論の結果、決定に至らず年明けに再度、協議することとした。

方向性としては、全町民を対象に商品券を支給することで決定した。支給時期は、漁業支援と同時期に支給することとした。

〔令和3年1月8日〕

案件

一、新型コロナウイルス感染症対策について

(内容)

漁業者・畜産農家世帯を除く町民に対して一人あたり1万円を一世帯上限4万円として支給することと決定した。支給時期は漁業者支援と同様に二月上旬に決定した。

特別委員会

〔令和2年11月2日〕

【大間町公共施設配置
計画策定・建設特別委
員会】

案件

一、(仮称)複合施設建
設事業について

(内容)

施設規模159
6.92㎡(前回よ
り96.92㎡増)、
鉄骨造で、工期は令
和4～5年とする。



〔令和2年11月12日〕

【大間・函館フェリー
航路対策特別委員会】

案件

一、津軽海峡フェリー
(株)に対する支援につ
いて

(内容)

新型コロナウイルス
感染症拡大による津
軽海峡フェリー(株)が
受けた影響を考慮
し、船体の修繕を目
的とした1000万
円の支援を行う。県
にも支援をお願いし
たところ1/2の割
合で合意し、町は1
/2の500万円を支
出することとした。

※本案は12月議会定例
会で可決されました

〔令和2年12月1日〕

【大間・函館フェリー
航路対策特別委員会】

案件

一、津軽海峡フェリー
(株)に対する支援につ
いて

(内容)

県への要望活動報
告と津軽海峡フェ
リー(株)との覚書につ
いての報告がなされ、
県が1/2の補助の確
認がなされた。
津軽海峡フェリー
との覚書では、「今
回限りの特例支援と
する。」との内容で、
取り交わすことと合
意した。

※本案は12月議会定例
会で可決されました

【大間町公共施設配置
計画策定・建設特別委
員会】

案件

一、大間消防署庁舎に
ついて

(内容)

新大間消防署庁舎
については、大間病
院向いの町有地に建
設することとしてい
るが、基本設計が出
来上がったことから
説明がなされた。面
積は一階床面積13
40㎡、二階床面積
851.87㎡の鉄
筋、鉄骨造である。
敷地面積及び他の工
築物等の関係もあ
り、再度協議するこ
ととした。



〔令和2年12月10日〕

【大間原子力発電所対
策特別委員会】

案件

一、新規制基準適合性
審査の対応状況等に
ついて

(内容)

大間原子力発電所
の安全審査は201
5年の第一回から始
まり、2020年11
月の第43回まで6年
間となります。本工
事再開がいつになる
のか、気がかりなと
ころです。

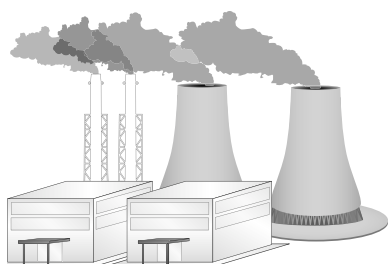
適合審査状況は大
分進んでおり、今後
は基準地震動の審査
へと進んでいくよう
であります。一日
でも早く国の安全審
査が終了し運転開始
が見えてくるよう望
むものです。

二、建設・運転差止等
訴訟の審理状況につ
いて

(内容)

○住民の訴訟
札幌高裁の控訴審は
第5回口頭弁論が終り
第6回は2021年3
月2日に予定されてい
る。

○函館市の訴訟
東京地方裁判所での
第23回口頭弁論は20
21年2月5日に予定
されている。





奥戸中学校閉校記念式典

令和2年10月31日



本年度で閉校する奥戸中学校の閉校記念式典に、議会から7名の議員が参加いたしました。

式典には、全校生徒23名と、保護者の方や地域の方約120人が参加しました。

奥戸の精神と伝統は、4月から大間中学校に受け継がれます。

(記 堺)



竹内 滋仁 氏 (61歳)
任期 令和3年1月17日～
令和5年4月29日

千代谷誠議員が亡くなられ欠員1名となったため、1月12日告示・17日投開票の町議会議員補欠選挙が行われました。
当選された議員の紹介をいたします。

大間町議会議員補欠選挙 当選議員を紹介



編集後記

新しい年も明けて、早いもので一ヶ月が過ぎようとしています。皆さんいかがお過ごしでしょうか。昨年はコロナウイルスの影響で大変な一年であったと思います。今年に入ってもまだ取まる気配もありません。東京方面ではまた増えてきているような状態です。県内でも、ほぼ毎日のように感染者が報告されています。自分もいつ感染するかかわからない状況です。消毒などこまめに行い、万全の体制で今年一年乗り切って行きたいものです。

今年も牛です。牛の歩みにも、あせらずたゆまず根気よく、笑顔でコロナに負けない体力作りがけましょう。皆さんの御健康を心から祈っております。

(記) 竹内

議会広報編集委員
委員長 吉田 安男
副委員長 佐々木 信彦

委員
岩竹野堺
泉内崎
盛勝信祐
利雄行介